

令和3年度宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金 交付決定一覧表(総合)

番号	事業名	事業者	事業概要	交付決定額 (円)
1	被災者と地域住民コミュニティのIT活用による絆づくり	公益財団法人仙台応用情報学研究所 復興財団	<p>【事業目的】 復興地域に移住する被災者や既住民を対象として、地元住民相互の絆づくりや自治会役員との交流を深めて地域の活性化に繋げることを目的とする。その目的を遂行するため、スマートフォン等の簡単な使い方及びSNSを使ったコミュニティづくりの教室と交流会を定期的に開催する場を提供するほか、参加者の方々とSNSをどのように活用したら良いかなどのワークショップを開催し、一緒に作り上げていく。また、初歩ではあるがICTリテラシーの向上に繋げ、家族、友人とのコミュニケーションでの活用や趣味の領域の拡大、生活の質の向上、インターネットやケータイの特殊詐欺への注意喚起などを行う。</p> <p>【事業概要】 南三陸町、東松島市、山元町など復興地域の自治会長及び社会福祉協議会の協力を得て、1コース4回のスマートフォンの簡単な使い方及びSNSを使った地域コミュニティの作り方、インターネットの活用方法(行政からの情報収集、お買い物等)と茶話会的な交流会を9コース開催する。</p>	1,800,000
2	NaNa5931オリジナルミュージカル公演	七ヶ浜国際村事業協会	<p>【事業目的】 七ヶ浜は震災による津波で町土の約3分の1が浸水するなど壊滅的な被害を受けました。災害公営住宅や高台移転など住宅再建は完了しましたが、別地区に移り住んだ町民も多く、新たなコミュニティ形成と活性化が現在の課題となっています。本事業は、幅広い年代の町民がともに「いのち」「七ヶ浜」をテーマとしたミュージカル作品の制作に取り組むことにより「世代間交流の促進」「震災の風化防止」「町の文化の発信・継承」を目的とします。</p> <p>【事業概要】 七ヶ浜国際村の劇場付きミュージカルグループとして町民が舞台芸術を身近に感じられる環境づくりのために2001年に設立され、小学生から社会人まで幅広い世代の七ヶ浜町民約30名が所属するNaNa5931(ななごきゅーさんいち)によるミュージカル公演を実施します。「いのち」と「七ヶ浜」をテーマに、演者・観客ともに「明日への希望」「地域への愛着と誇り」を感じることでできる七ヶ浜ならではのステージを作り上げます。</p>	1,800,000
3	被災地の若者から学ぶ子どもの遊び場支援事業	一般社団法人プレーワーカーズ	<p>【事業目的】 被災地域に住む若者(震災当時の子ども)自らが、子どもの遊び場支援について語り合うことで、その子たちの原点復帰と今後の人生設計を考えるきっかけとする。また、その機会をお話会・座談会とすることで、被災住民の一般参加を募り、リタイアされた方を含めた子どもに関わるボランティア育成の場とする。さらに、もう一歩参画の度合いを深めるため、小冊子の作成を通じ、継続的な関わりを実践する。</p> <p>【事業概要】 ・被災地域(気仙沼市)の若者から住民へ向けた子どもの遊び場支援のお話会、座談会を実施した。 ・座談会(昨年度の石巻と今年度実施する気仙沼)の文字起こしを当事者の若者や被災住民と共に文字起こしをして小冊子にする。</p>	443,000
4	亘理町こどもミュージカルプロジェクト	一般社団法人スタンドアップ亘理町	<p>【事業目的】 東日本大震災そして令和元年台風19号による災害などにより、宮城県仙南被災地域に暮らす子どもや大人達の生活環境は一変し、現在でもPTSDや心理的な心の不安などに様々な困難を抱えている方は少なくない。被災地の子どもたちが自らの感情・心情・思考などの内面を表現する表現活動を通してコミュニケーションを重ね、まちを再生していく原動力となっていくことを目的とし、プロの役者ととも制作するオリジナルミュージカル公演を行う。ストーリーに沿って、子ども達が自らの思いを台詞や踊りに込めて表現し、被災者自身である子ども達から大人達への応援メッセージを届ける。</p> <p>【事業概要】 ①プロの役者と参加者同士の交流(役作り、演技指導、演劇鑑賞、ワークショップなど)を通じた心の表現活動(年4回) ②被災者自身が主役のオリジナルミュージカルの実施(年1回)</p>	1,800,000
5	ふるさとと全国をつなぐプロジェクト	特定非営利活動法人とめタウンネット	<p>【事業目的】 宮城県登米市に移住してきた南三陸町の方々やコロナ禍でふるさと・南三陸町の親戚や友人たちと会うのを控えている。また毎年被災地を訪れてくれた全国のボランティアたちも訪問を取りやめ、交流が途絶える不安を抱いている。この事業ではそうした繋がりを再構築するために、インターネットを使って、お茶っことしながらスマホの使い方を練習し、季節ごとにゆかりのある全国の人たちとオンライン交流会を実施する。</p> <p>【事業概要】 毎月1回(7月から2月まで)災害公営住宅入居者と大綱3町内会を対象に「お茶っことスマホ教室」を開催し、お茶っこと通じて地域の話などを話しながら、「スマホ」や「インターネット」、「SNS」などについて情報を提供し、参加者の興味ある事柄に対して操作方法や使い方などを説明する。また季節ごとにオンライン交流会を開催し、Zoomを活用して全国各地にいるボランティアの人たちと交流会を開催する。</p>	1,430,000
6	被災地の子どもと親・シニアのためのプログラミング教室事業～プログラミングで「ふれる」「かんがえる」「まじわる」を体験してモノづくりの風を起そう! Part3～	特定非営利活動法人Synapse40	<p>【事業目的】 「子どもと親・シニアのためのプログラミング教室」を通して、子どもと親・シニアが良質なプログラミング教材に触れ、問題を解決するための論理的な思考を促す。また、モノづくりへ発展する交流活動を通して、被災地と都市部との学びの地域格差を解消するきっかけをつくる。</p> <p>【事業概要】 ・「ふれる」「かんがえる」「まじわる」をコンセプトにした「子どもと親・シニアのためのプログラミング教室」を学ぶ機会が少ない被災地で継続開催し子どもや親・シニアの方々と大崎市の「micro:bitジュニア・アンバサダー」「シニアのくもぐプログラミングクラブ」のメンバーとオンラインで「教え合う・支え合う交流の場」を設けて、受動的な態度から能動的な態度を取れるよう自らの学びを深めるための主体的な活動を行う。</p>	1,800,000
7	レクイエム・プロジェクト仙台2021	レクイエム・プロジェクト実行委員会	<p>【事業目的】 合唱団参加者(被災者)がその練習過程(月に約3回通年実施)において、合唱を通して、その悲しみや苦しみ、願いなどを音楽に託していく方法を学び、被災者同士の交流を行い、「人と人とのつながり」「生きがい」を創出しながら傷ついた心の復興を目指していくことを目的とする。そのプロセスの一環として、震災犠牲者の追悼と、未来への希望を込めたコンサートを年1回行い、また災害公営住宅でのミニコンサートを通じた被災者同士の交流を行う。</p> <p>【事業概要】 被災地の詩人が書き下ろした詩による合唱作品(福島詩人・和合亮一氏や、岩手県久慈市の詩人・宇部京子氏など)を合唱団が練習し、仙台出身の音楽家や、仙台フィル有志を中心としたプロのオーケストラ、ピアニストらとともに演奏し、被災地の思いと震災の記憶の風化防止を願う思いを来場者と共に共有する。 特に昨年度からは、ローカル・ジャーナリストの寺島英弥氏が長年の被災地取材を通じて蓄積された想いを詩に託し、合唱作品として代表の上田益が作曲している混声合唱組曲「また逢える～いのちの日々見つめて～」の初演に向けた取り組み(合唱練習)が今年度は本格化する。初演に合わせて大手の全音楽譜出版社から刊行が決まっている楽譜の出版と、その楽譜を持って歌う初演(9月11日、元寺小路教会聖堂)は、被災地からの重要な発信源となる。その他、2018年から続けている災害公営住宅でのミニコンサートを通じた被災者同士の交流事業が、主だった内容となる。</p>	1,800,000
8	SCSミュージカル研究所七ヶ浜公演 ころの復興ミュージカル『忘れない忘れない』	一般財団法人SCSミュージカル研究所	<p>【事業目的】 地元のミュージカル団体からも参加希望者を募り、ともに稽古を行い公演本番をむかえることで、出演者同士の人的・文化的な交流をはかる。この公演を契機として震災や感染症により失われつつある人と人とのつながりを持ち、被災地域で地元住民と共に上演することで、舞台芸術を通じて本作品の鑑賞者と出演者、関係者に対し、震災記憶をもとにして復興発展への気運を高めることが期待できる。</p> <p>【事業概要】 2022年3月に、被災地域である七ヶ浜国際村(七ヶ浜町)を会場として、震災記憶の風化防止、防災意識の啓もうを趣旨とした公演を上演する。自治体とも連携し、地元七ヶ浜町のミュージカル団体から出演者を募り、一緒に稽古を行い本番を迎える。公演は一般公開し、地元住民や周辺の市町村からも多くの鑑賞者を募る。作品では、事前に取材を行った被災者の言葉を、舞台を通して鑑賞者へ伝え、被災者の体験談や関連する歌やダンスも披露する。終演後に地元住民との交流会を行う予定。</p>	1,800,000
9	『～100年以上先の未来にまで、廃校・閉校校歌を通し復興の心を歌い継ぐワンソングプロジェクト～』	一般財団法人オーバザレインボウ基金	<p>【事業目的】 廃校及び閉校校歌を通し復興の心を歌い継ぎ、地域のアイデンティティを確認し地域の未来への思いを共有することを目的に、ワンソングプロジェクトの活動を震災被災地域にて展開する。</p> <p>【事業概要】 復興の心を歌い継ぐ校歌復刻保存プロジェクトを、被災地の廃校及び閉校卒業・地域関係者100名前後の参加者で開催。参加者による校歌音源収録及び新録音の校歌合唱音源を制作し、無料の動画配信(YouTube動画)上に公開。地域内外在住の卒業生や元住民等約1,000～10,000人に波及する。過去に実施した際のアンケートで強い要望のある参加者の校歌音源及び新録音合唱校歌を含むCDを制作し無料配布も実施する。更に様々な理由で地元を離れた方々や当日不参加の地域住民へ届けたい。震災10年目を迎えた2021年、地域住民の共通話題ツールの1つとしても校歌音源動画WEBやCDも地域の活性化に活用する。開催日程はコロナ感染対策用ワクチン接種後を想定し、開催方法は感染状況に合わせた方法で撮影&合唱音源収録を行う。(例:数回のブロックに分け、少人数一組ずつによる校歌音源収録/Zoomによる合唱撮影&音源収録/従来の参加者によるワークショップと合唱撮影&音源収録、又は混合スタイル)</p>	1,800,000

令和3年度宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金 交付決定一覧表(総合)

番号	事業名	事業者	事業概要	交付決定額 (円)
10	仙台市若林区沿岸部の農村コミュニティ再生プロジェクト	一般社団法人ReRoots	<p>【事業目的】 若林区沿岸部は広大な農村地帯であるが、東日本大震災の津波被害によって甚大な被害を受けた。被災から10年で営農再開や現地再建は進んだが、約1500世帯から500世帯程度に人口が激減した。また、2つの小学校の閉校で若者世代が大きく減り、高齢化率は七郷地域で30.5%、六郷地域は38.8%(2019年時点)にもぼっている。被災による急激な過疎化、高齢化によるコミュニティの希薄化、伝統文化の衰退は顕著であり、本事業では地域の伝統文化を活用し、住民同士の繋がりがりや生きがい、やりがいを創出して、被災地域が自立して存続できるような復興地域づくりを進める。</p> <p>【事業概要】 ①六郷東部ふるさと交流祭:住民が主体となって、地域の伝統文化や趣味を活かしたブース展示や発表を行う。地域の町内会や関係団体で実行委員会を組織しており、ReRootsも参画して、交流祭全体の運営とブース出店を行う。住民自身の取り組みを支えることでコミュニティを創り出し、住民の活力を引き出す。 ②七郷地域の方言集制作プロジェクト:地元住民の発案のもとで地域の方言、歴史や伝統を冊子化する。住民が共通して使う方言を調査し、冊子としてまとめ、お披露目会として住民の集いの場づくりにも繋げる。</p>	1,470,000
11	「こころの表現」と『いのちのかたりつぎ』事業	一般社団法人三陸まちづくりART	<p>【事業目的】 演劇作品への参加・出演を通じて、東日本大震災の体験について自らの感情を表に出したり、表現として他者に伝えていく体験を提供します。歌やダンスや演劇を通じて、楽しみながら自然災害テーマにした作品を創作することで、災害を次の世代に継承することについて大人と子供と一緒に学び話し合う機会を作ります。作品の内容と自身の災害の記憶や思い出が一体となってアート作品として昇華する体験を提供します。</p> <p>【事業概要】 ・出演する俳優や演出家との稽古(全4回×受入先4か所) ①稽古1(歌とダンス) 90分 ②稽古2(演劇) 90分 ③オーディション 120分 ※配役を決めるためのもので希望者は全員出演できます ④会場でのリハーサル 180分 ・演劇作品「いのちのかたりつぎ」の上演(上演時間65分) 令和3年11月7日(日)マルホンまきあーとテラス・小ホールにて</p>	1,800,000
12	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">交付決定5. 新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため事業を廃止したもの</div> ジュニアジャズミーティングinみやぎ2021	公益財団法人宮城県文化振興財団	<p>【事業目的】 会館が立地している定禅寺通りを中心に開催される定禅寺ストリートジャズフェスティバルの期間中に、公益財団法人 宮城県文化振興財団、公益社団法人定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会及び復興支援音楽の会が連携し、震災からの復興と次世代を担う子供たちの育成と交流を図るため、被災地のジュニアジャズグループに発表の機会を提供するもの。</p> <p>【事業概要】 東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)大ホールにおいて、県内のジュニアジャズグループがステージ上でジャズ演奏を披露する。被災地域に住む子供たちの元気に演奏する姿をおして、被災地域に住む住人に元気と励みをもたらす効果が期待できる。また、演奏に参加する子供たちも音楽を通じ演奏する楽しさを仲間と共有することで健やかに豊かな感性を育む人間性を養うことが期待できる。今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延により規模を縮小し、大ホール入場者数を規定の半分以下にする等、感染防止対策を講じて行う。</p>	1,585,000
13	音楽と交流によるコミュニティ形成支援事業	公益財団法人音楽の力による復興センター・東北	<p>【事業目的】 復興の大きな課題の一つと指摘されている、被災者等の心の復興や地域コミュニティの形成促進に向けて、地域の要望を受けて出向き、音楽を通じたひとり一人の心身のケアや生きがいづくり、住民同士の交流機会を創出することを目的とする。</p> <p>【事業概要】 プロのクラシック演奏家による《復興コンサート》について、被災地域の地元主催者と連携し、協働して開催する。その他、被災者が声楽家等音楽リーダーの下、共に歌い楽しむ《うたごえサロン》事業、被災者によるサークル活動へ音楽家を派遣する《音楽サークル指導》等、音楽を通じた交流・生きがい創出事業の、コーディネートおよび企画・運営を行う。</p>	1,979,000
14	音楽療法手法による心の復興IN宮城2021	特定非営利活動法人音楽療法NPOムジカトゥッティ	<p>【事業目的】 本事業は、音楽療法のもつ人間性を回復させる力によって世代間交流を図り、乳幼児親子から障がい者、高齢者の誰もが参加でき、交流感、一体感、有能感、達成感を味わえるアクティビティにより、心の復興を図ることを目的とする。</p> <p>【事業概要】 全事業を音楽療法士のたたらと劇団四季ライオンキング初代打楽器奏者のモファンがファシリテートする。両名で独自開発し全国で効果をあげている【音楽療法とアフリカンリズム統合プログラム】を用い、ピアノ、様々な楽器、歌、ダンスを統合した手法でQOLを高める。一切楽譜を使用しないので、参加者の苦手意識が薄れ、リラックスしながら自然なメンタルケアが促進される。このような手法で実践を継続しているのは全国でも当団体のみで、欧米で展開されているコミュニティ音楽療法の先駆的な実践といえる。2020年度の活動の中で10名の中核メンバーを育成することができたので、今年度の事業では、そのスキルアップ、地域への啓発啓もうに力を注ぎたい。</p>	1,800,000
15	花とアートでつなぐ緑	Ringe38°C実行委員会	<p>【事業目的】 花を生けるには、色彩学や構造学、植物学、建築様式学等様々な知識が必要となる。そのような知識を得て自信を持つことで、被災者が物事に積極的に関わられるようになり、前向きな気持ちになること、また、集団で作業をし、お互いをサポートし合いコミュニケーションを高めることを目的とする。</p> <p>【事業概要】 ワークショップを通して花を生けるための多角的な知識を学び、モノづくりのプロセスを知る。積極的に自分の考えを発表し、形に変え、被災者自身に成果を感じてもらう。</p>	1,800,000
16	石巻圏域の住民主体の生きがいづくりと心のケア事業	特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク	<p>【事業目的】 石巻圏域では震災によるコミュニティの分断からの孤立、孤独死や自殺率の増加が課題となっている。コロナ禍の自粛に伴いさらに増加することが危惧されるストレス過多の状況であるため、住民主体の気軽に立ち寄れる生きがいづくりと心のケアができる居場所を創り、孤独死、自殺率増加に歯止めをかける。</p> <p>【事業概要】 石巻圏域の復興住宅集会所や公民館等の行政施設等にて、震災以降継続してきた住民参画型のサロンやイベントの開催に加え、心のケアのため相談業務を行う。これまで活動を行う中で講師となった住民が、市の教育委員会の事業(家庭教育学級、まなび舎)の講師として登録できたので開催のサポートもあわせて行う。また、被災者との交流や心の復興に貢献したいという個人や企業等と住民のニーズをコーディネートし、心の通い合いを繋ぐとともに、住民の経験から防災減災を学ぶ場とし、震災の風化防止に繋げる。</p>	3,150,000
17	地域住民の力による地域活性化音楽プロジェクト	特定非営利活動法人亘理いちごっこ	<p>【事業目的】 「音でつながるこころのコミュニケーション」の構築を図る。 震災後、支援により様々なアートがこの被災地に定着してきた。しかし、時の経過とともに芸術に触れる機会も減り、「もう10年だから仕方ないね」という言葉が日常的になっている。それならば、自分たちで音楽をつくり発信していく土壌を作る。今現在、音楽は生活とは別のものとなっている田舎の風土を変え、だれもが音楽による心のあそびを得られる環境を構築する。音楽を主軸とした地域活性化を図るとともに、仙南域を音楽芸術発信の地としていく。</p> <p>【事業概要】 宮城県仙南域におけるクラシック音楽の普及を図るとともに、継続事業としていくことで、発信拠点としていく。震災から様々な地域の方たちと交流を図ってきた。WEB交流を屈指し、次へのつながりのSTEPとする。具体的には、1月30日【震災にもコロナにも負けないぞ!!コンサート】の実施(一般参加者を広く募集)、2022年8月【陽だまり 弦楽器によるアンサンブルコンクール】実施に向けた準備を進める。</p>	1,800,000
18	被災者自身が主体的に参加する「心の絆づくり」音楽プロジェクト	東北市民バンド協議会	<p>【事業目的】 被災者自身が主体的に参画し、災害公営住宅自治会等の自立・活性化を図るとともに、町内会や自治会等の各種団体と連携して性別や世代を超えた交流を深めることにより、新たな絆づくりの創生を図る。</p> <p>【事業概要】 災害公営住宅自治会や町内会が協力して被災者が住民を誘い演奏家や歌の指導者と一緒に参加して、参加者が打楽器、歌、手話などを体験する体験型交流コンサートを行い、終了後は感想などを話し合い、住民同士の絆を深めるお茶会を開催する。その他、他者が主催する行事に参加し、歌を発表する。また、参加者アンケートを実施し、次回イベントに反映させる。</p>	3,150,000

令和3年度宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金 交付決定一覧表(総合)

番号	事業名	事業者	事業概要	交付決定額(円)
19	復興公営住宅の運営改善とネットワーク促進事業	一般社団法人石巻じちれん	<p>【事業目的】 東日本大震災で整備された災害公営住宅の入居住民組織には、自治的な役割と住宅管理的な役割が求められるが、行政との明確な役割分担がされていないために入居者の負担が重荷になり担い手不足となっている。被災者以外の入居者の増加や団地の高齢化をにらみ、公営住宅の運営のあり方を多様な主体と探ることを目的とする。</p> <p>【事業概要】 入居者同士のノウハウの共有と、市や管理代行を行う宮城県住居供給公社、社協や包括ケアセンターなども交えた会議体を形成し、災害公営住宅のハード管理とソフト管理の課題解決を協議する。 また、団地会同士の交流を促進する場作りを行い、運営の悩みごと相談やいざという連携を住民側だけでも形成する。</p>	1,495,000
20	被災者支援・ふるさと東北支え合い運動	特定非営利活動法人仙台明るい社会づくり運動	<p>【事業目的】 被災された方と生きる糧になる『生きがい』を共に創っていく仲間として継続的に支え合う ・全国から東北を訪れる人を後押しし、共に支え合える環境を提供する</p> <p>【事業概要】 ①災害公営住宅付近での農作業、交流会支援(農業)②地域コミュニティ支援による地域活性化(まちづくり)③災害公営住宅での趣味の会支援(ものづくり)④復興住宅での歌唱、演劇支援(文化芸術)⑤子供支援(被災地の子供居場所づくり)⑥東北以外住民と被災者の交流(震災風化防止) ⑦東北以外の住民の漁業体験(水産業)</p>	987,000
21	閉上・元気を運べ・コミュニティ再生事業	一般社団法人ふらむ名取	<p>【事業目的】 閉上地区では、地元住民と移住住民が毎年増え近所付き合いが薄く、閉上だより配布により顔の見える関係づくりを継続します。高齢単身者が多く入居する閉上中央第一団地では、交流茶話会を行い、生き甲斐づくりを目的にした共同作業茶話会を行います。最長で入居から5年が経過し、住民同士の人間関係が孤立している住民へ傾聴支援を行い、集う交わる喜びを取り戻せることを目的とします。</p> <p>【事業概要】 地域情報紙「閉上だより」を発行するに当たり、作成・配布に参画し顔の見える関係を作り、近所力向上と交流のきっかけに努めます。共同茶話会を行うことで自分の役割を自覚し、住民との繋がりと生き甲斐を感じ自発的発案が生まれ共助力向上に繋がります。また、定期開催することにより孤独感からの解放が希望を抱くようになります。人間関係から孤立している住民への傾聴も行っていき、一つの閉上・地元愛が醸成されていく事業に取り組みます。</p>	1,800,000
22	人の五感を刺激することにより心と体を再生する	一般社団法人復興支援士業ネットワーク	<p>【事業目的】 ①震災以後、体調を崩し自宅に引きこもっている方々に対してリラックスできる場所を提供する。②近所関係が希薄といわれる昨今である。災害公営住宅にお住まいの方にとっても新たなコミュニティの場になりたい。③疲れた心や体を回復させるためには、心身をリラックスさせることが大切。人間本来の主要な感覚である「視」「聴」「嗅」「触」「味」の五感を刺激し、心や体のコリを上手に解すことが出来る。④社団の専門家による相談会を行う。東日本大震災後の生活をどうするか、最近の新型コロナウイルス感染症後の生活再建、行政による対応策などの相談の対応を行う。</p> <p>【事業概要】 震災以後、体調を崩し自宅に引き籠っている方の大部分は心身や経済的にストレスを感じている事が多い。体調を崩し自宅に引きこもっている方々に対してリラックスできる。柔整師・社会福祉士・FP・行政書士等の専門家が心身(具体的な医療部分は除く)や生活再建に関するアドバイスをすることで健康に関して新たな気づき生まれるという効果がある。福祉に関して、内容次第では、地域包括支援センターへの連絡をすることで、生活困窮者をいち早く行政サービスにつなげたい。</p>	952,000
23	子どもから広がる心の復興事業	チャイルドネットジャパン	<p>【事業目的】 震災以降、一貫して被災した子どもたちの居場所づくり、心のケア活動を続けてきた。震災から10年が経ち、現在の中学生ぐらいまでの子ども達の多くは、記憶していないか、あるいは知らない世代となった。しかし、繰り返し聞かされる話や、周りの大人達が苦悩する姿を見て、元気がない子どももいる。これまでの活動で、子ども達が元気に笑顔が見られるようになると、周りにいる被災者(大人)も元気になるということがわかった。今年度は、地域に住む子ども達を中心に被災者が一緒に活動を行うことで、被災した大人たちの心の復興へとつなげ、地域全体の心の復興を目指す。</p> <p>【事業概要】 これまで関係のあった復興住宅の住民に働きかけ、子ども達と関わる活動を行う。週1回の子どもの居場所づくりや、月1回の読み聞かせ会、各地域を横断する年3回の工作教室と図書館祭りを開催。そして、全員で「海はともだちーうみへの手作り水族館」を開催する。</p>	1,506,000
24	地域の社会人を対象にした、垣根を超えて行う心の復興支援事業	一般社団法人ISHINOMAKI2.0	<p>【事業目的】 東日本大震災をきっかけに被災地では、様々な心の復興支援活動が行われてきたが、震災から10年、予算減少に比例しその取り組みは減少しつつあり、新たな活動が生まれる機運も少なくなった。そこで、地元企業経営者や震災以降生まれたNPO事務局スタッフ(30~50代)(=対象①)と、会社・業種や世代の垣根を超えた地域で働く20代の若手社会人(=対象②)の2つの層を対象に、それぞれが地域で主体的に活動する機会を提供し、生きがい・創出と心の復興支援を行う。また、活動をする中で対象者が支援者となり、地域で心の復興支援活動を行っていく連鎖を生み出していく。</p> <p>【事業概要】 以下2つの取組みを、それぞれ異なる世代を対象に取り組みを行う。また2者間の世代間交流機会も創出する。 ・取組①: 対象①を対象に、ニーズのある「次代の若手の育成・心の復興」をテーマにした意見交換や、協働できることを話し合う場を設ける。また、話し合いの中で生まれた企画を実施していく。 ・取組②: 対象②を対象に、彼ら彼女らが集まり交流をすることで「地域同期」を形成し、心の復興を目指す場を設ける。また、取組②の企画運営や広報は対象①が主体的に参画し実施をする。</p>	1,800,000
25	映画・演劇・音楽の力でリバイバル、地域活性プロジェクト	石巻劇場芸術協会	<p>【事業目的】 かつて三陸沿岸部には映画・演劇・音楽文化が色濃く存在し、市民活動が盛んな時代があった。しかし中心市街地が元気を失っていくにつれ、芸術文化も衰退。東日本大震災以降にはあらゆる市民活動が休止を余儀なくされた。そのような中でも芸術文化は心の復興を支えるものとして大きな力となっており、活動の数も増えて来た。にもかかわらずコロナの影響で文化・芸術活動の機会を失いかけている。復興の街づくりが最終局面にかかる三陸沿岸部で、今こそそのリバイバルのために、子供たちからシニア世代向けに、コロナ禍でも安心して楽しめる、市民の文化活動の場づくりを行う。</p> <p>【事業概要】 三陸沿岸部の各地域で被災者と一緒に映画イベント及び演劇・音楽イベントの企画と開催を行う。上映をするまでの活動を通して新たなコミュニティ形成を図り、心と心でつながり、絆を作り、寄り添える関係性を生み出してゆくために、地域で継続的な活動ができるきっかけと、コロナ禍でも安心して楽しむことのできる場を創出する。</p>	1,621,000
26	伝統を未来へ～音でつなぐ心の絆～	皖山会・一音舎	<p>【事業目的】 伝統音楽体験を通して、新たな地域コミュニティの形成を図り、年代を越えたコミュニティの場を設けることで、生きがいや心の癒やしをもたらすこと、また伝統楽器の持つ精神性が若い心を育てることを目的とする。ホール公演では、プロの演奏で心の安らぎを得、また自らが体験した楽器の成果を発表する機会を設けることで、大舞台での発表が自信をもたらす、強い心を育むきっかけになるのではと期待する。また、行山流水戸辺鹿子躍保存会を迎える。コロナ禍により発表の機会が著しく減少した地域伝統芸能の継承と普及、発展の一助になることも大きな目的とする。</p> <p>【事業概要】 プロの箏、尺八奏者による《伝統音楽体験》について、被災地域の町長はじめ地元関係者と連携し幅広い年代層へ向けて周知を図り、地域の公民館などのコミュニティ施設で楽器体験などのワークショップを行う。 《ホールコンサート》について、プロ奏者によるコンサートプログラムに、ワークショップ参加者と共に共演できる曲を加える、また、音楽を通じた交流、心の復興支援を目指した企画・運営・演奏・実技指導を行う。</p>	1,800,000
27	地域の宝を発見！心のげんきUPプロジェクト	特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク	<p>【事業目的】 被災地(主に沿岸部)の子供たちや地域住民、保護者らを対象に、被災地域の宝(地域資源)の魅力発見と、地域愛を醸成する。 ・体験活動を通して、互いの交流とつながりづくりを促し、心の元気アップを目指す。</p> <p>【事業概要】 地元企業や公的教育施設と連携しながら、ワークショップ型の体験活動を通して、被災者と震災を知らないもしくは記憶の少ない小・中学生との交流し、学び合う。</p>	1,674,000

令和3年度宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金 交付決定一覧表(総合)

番号	事業名	事業者	事業概要	交付決定額 (円)
28	いのちを守る防災・サバイバルの キャンプ&ワークショップ	子ども防災協会	【事業目的】 被災した当事者の中には、10年経過した中でいつまでも震災の被害者としてやってもらってばかりでは嫌という人たちがいる。被災をした当事者が防災・サバイバルワークショップの準備の中で、子どもたちのために議論をしたり、企画に関与したりすることで、役割ややりがいを感じる機会を創出する。 復興公営住宅などの集まりにおいては、メンバーが高齢化・固定化する傾向がある。特に20～40代の若い世代は仕事や家庭もある中で、なかなか参加しにくい状況にある。いのちを守るためのサバイバル・スキルを子どもたちと学ぶワークショップをすることで、若い世代や子育て世代の被災経験者たちがつながる機会を創出する。 同時に、いざという時に72時間、生きのびる子どもを増やす。 【事業概要】 (1)子どもたちに向けた防災・サバイバルワークショップのテーマ等を企画・検討(テーマは被災経験者とも議論)。(2)被災経験のある若者を中心に、住民が防災・サバイバルスキルを学べる場を設定。(3)防災・サバイバルのワークショップを具体的にテストし、広報。子育て世代を中心とした参加をつくる。(4)実際に子どもたちにむけて企画を実施(直接的な被災児童のほかに、被災世帯の子どもたち等も対象 ※)震災当時、まだ小さかった子やお腹にいた子の他、生まれていなかった子どもも含む。	1,800,000
29	被災者同士や被災者と支援者との 絆づくりによる心の復興支援事業	一般社団法人ワタマスマイル	【事業目的】 本事業では、被災者同士の繋がりがづくりや交流の場づくりにより子どもから高齢者まで幅広い世代の世代間交流、被災者の孤立や孤独の防止、被災者と支援者との絆づくりを目的とする。 【事業概要】 石巻市内にある災害公営住宅、東松島市の矢本地区にある災害公営住宅、女川町の女川地区にある災害公営住宅の3市町の災害公営住宅などへ新しく移り住んだ住民やその周辺地域の住民同士、または3市町の被災者と支援者が絵手紙やビデオメッセージなどをとおして地域住民同士の交流を深め、さらに被災者と支援者との絆づくりを図っていく。	1,800,000
30	荒井ふるさとめぐりノルディック ウォーキングによるこころの復興支 援事業	特定非営利活動法人日本ノル ディックフィットネス協会	【事業目的】 東日本大震災から10年。大きな被害を受けた荒井地区七郷地区では復興が進み多くの復興住宅が建てられています。新たな生活が始まりふるさとが変わりつつある今、以前のような隣近所意識は薄れていばかりです。ノルディックウォーキングの良さは、健康づくりだけではなく一緒に歩くことで仲間意識が生まれます。新たなコミュニティづくり、心身の健康増進、介護予防、世代間交流、記憶の風化防止、防犯防災、メタボ解消等が期待できます。何よりこのコロナ禍の中で、屋外で実施できる安全なスポーツなのです。この事業実施で更なる地域の活性化が生まれることを目的といたします。 【事業概要】 地域の様々な団体に声がけをし、協力団体に説明会を開き事業概要を理解してもらう。そのような下地づくりをし、ノルディックウォーキング体験会を実施し被災者の心の復興をめざしていく。毎月第2・第4の日曜日を実施日とし、各回ごとに歩くコースを決め 新たな地域発見の糸口を作る。様々な形のノルディックウォーキング(以下NW)を提供する。(・フレイル予防としてのNW・親子でNW・歴史を知るNW・園芸センター巡りNWその他)	674,000
31	演劇メソッドで若者のプレゼン能力 アップ	一般社団法人ボランティア東北 ファミリア	【事業目的】 演劇メソッドは、役が登場する前の人生、思考、経験を全て準備した上で、舞台上で役として台本に書かれた役の人生を体験するというものです。「本当に感じ」「本当に考え」「本当に経験する」リアリティを重視した演技法です。内面へのアプローチと共に、それが自然な形で表にあらわれていくような訓練、リラクセス、五感の記憶、感情の記憶などのエクササイズで感覚や想像力を高めていきます。その上で若者達に学んでもらうことで、自分自身の経験を伝える力が付、また疑似体験のメソッドの中で自分の心をもう一度見直し、先へ踏み出す自信と力になる。 【事業概要】 南三陸町で2013年から昔話や民話、創作演劇、有名ミュージカル等を、関東の演劇団体に公演してもらい笑い感動を届けることができていると自負しています。今後は演劇をもっと地元の方々と共に共有するため、まずは若者達へ演劇メソッドを使って、自分表現力を養って、表現力～プレゼンテーションの力を付け、今後必要である体験を語る「語り部活動」をも自信を持って語る事ができ、また自身の事や地域の事など、地域が持続可能な場所となりえるよう魅力あるプレゼンテーションが演劇メソッドを通じて養い語れるよう、毎年の公演を通じて醸成し、将来は地元の方々だけの開催となって、地域外からの方を呼べるような公演を開催できることを目的とした	1,800,000
32	被災住民主体の車を使った支え合 い活動を持続可能にするための主 体的な行動を促す事業	一般社団法人日本カーシェアリ ング協会	【事業目的】 復興住宅では高齢化と交通弱者とコミュニティの希薄さといった課題がある。それら課題を改善するために石巻市内復興住宅等の10地域で被災経験のある住民らが中心となり行っている車を使った支え合い活動が当協会のサポートの元地域のサークルとして設立し、ボランティアで運営され交流も促進されることで関わる方々の生きがいとなっている。しかし、担い手や資金の不足等の課題をそれぞれ地域で抱えている実情があるなか、住民らは生活の質を支えるこの活動をの継続を強く望んでいる。本事業では、この活動に関わる住民自身が活動維持の課題について考え、行動し、解決することを促すサポートを行うことで活動が継続し続けるための体制強化を目的とする。 【事業概要】 取組①地域ごとに運営の課題を話し合う場を2回以上作り、そこで出た課題の解決に向けての具体的なアクションの実行を併走的にサポートすることで課題を自ら解決する力をつけていただく。(課題発見&解決サポート) 取組②各地域のヒアリングを通して得たノウハウを盛り込んだ運営ガイドブック作成し、各地域の利用者へ配布することで運営の参考にさせていただく。(運営ノウハウの共有サポート) 取組③市内10地域の主な運営の担い手を対象に、他の地域の方々や交流したり、運営に関する勉強会を行う機会を4回提供することで地域間交流と担い手育成を行う。(担い手の地域間交流&勉強会サポート)	1,799,000
33	『今を支え・未来を育む』～心と身 体に優しい農地コミュニティ整備と 情報共有～事業	特定非営利活動法人スマイルシ ード	【事業目的】 世界的なコロナの影響で、被災地はさらに孤立化が進み不安を抱えた生活環境が増加しています。交流を持ちたくても持てない状況下にあります。災害発生から再生整備を行った農地・里地整備を継続的にを行い、人々が気兼ねなく関われる地域環境コミュニティ農園として活用できるよう維持管理し持続可能なサステナブル活動ができる場所づくりを行う。みんなのできること、数人でできること、個人やひとりでもできることなど、プランター菜園の推奨など、四季のある国に生まれた喜びを味わう事ができるよう、自ら健康や環境にさらに関心をもち生きがいづくりができるよう行う。 【事業概要】 被災地の住民と共に少人数制による農地・里地などを整備・耕作・多様な栽培を行い、地域環境コミュニティ農園づくりを行う。人々が集まることができなくても情報を共有することで、いつでも関わり・集うことができる場所との繋がりを維持し続けてもらう。内容は四季を通じた習慣や伝統・農園情報、健康や環境・職や命をテーマに、自ら何かしらの創る事やチャレンジするきっかけ作りのチラシを作成し、配布を行う。若い世代・シニア・お一人様方が自然によりそう、昔ながらの生活を大切に直すことの中に、自らの生きる力と知恵がワキタの占めるよう提供を行う。	1,800,000

第1回交付決定額(43,168千円)
第2回交付決定額(3,474千円)
第3回交付決定額(9,673千円)
56,315,000